

地域でがんばる 高校ボランティア

神戸鈴蘭台 和太鼓部



「ボランティア活動を熱心に行っている若いグループがあるよ」という話を聞くことが多くなりました。われわれシルバーも頑張らなくちゃ、という自戒を込めて、もう10年間も地域で和太鼓演奏を続けているという北区の神戸鈴蘭台高校を紹介しましょう。「こんなグループがある」という情報があればお寄せください。

◇ ◇ ◇

そーれっ ドンドコドンドコドン、ドンドコドンドコドンー。勇壮な和太鼓の音色が夏祭りの夜空に響きわたり、会場は拍手、喝采に沸きます。汗だくで熱演するのは県立鈴蘭台高・「和太鼓部 をとこ組」のメンバー。この日（7月31日）は、北区筑紫丘自治会のサマーフェスタが舞台です。得意な曲を7、8曲、30分あまりかけて演奏しました。

後日、同校を訪ね練習風景を見学しました。顧問の坂田純子教諭によると、和太鼓部は部員42人（1年生26人・2年生16人）で、女子が圧倒的に多く、地域の自治会や老人ホーム、学校などへの“出前ボランティア”が活動の中心だそうです。リクエストも多く、年間40回も出番があります。部長の城賢太郎君、澤野健人君、松岡桃花さん（いずれも2年生）に話を聞きました。「積極的に地域（社会）に出て、自分たちがどこまで役立つか、見つめなおす機会にしています。」と話しています。

練習は授業後3時間。力いっぱい叩くので、かな

りハード。夏場は汗だく、マメができて皮もむける。

「腕も太くなっちゃう」と女生徒には悩みもあります。演奏は締め太鼓という小型の太鼓でリズムをとり、大きな長胴太鼓（重さ20kg）で、ずんと響く音を出す。レパートリーは屋台囃子、八丈島太鼓、篝火、ONEなど14曲。メンバー40人が曲ごとに交代で演奏と裏方に回る……ということでした。地域を回っていて嬉しいことは、「ありがとう。とてもよかつた。楽しかったよ」と皆さんから声をかけていただくこと。「練習の甲斐があった。来てよかった」と満足感にひたれるひと時です。北区内では、しあわせの村、星和台、南五葉、小倉台、惣山町、ゆうゆうの里、あいなりの里などを毎年訪問しています。

神戸鈴蘭台高校（北区下谷上字中一里山9）は、鈴蘭台高と鈴蘭台西高を統合して2007年に創設。普通科と普通科コミュニケーションコースがあり、生徒数は8クラス320人。クラブは29あり、和太鼓のほか、福祉部もボランティア中心に活動しています。（取材・写真 南形徹）

神戸鈴蘭台高校（北区下谷上字中一里山9）は、鈴蘭台高と鈴蘭台西高を統合して2007年に創設。普通科と普通科コミュニケーションコースがあり、生徒数は8クラス320人。クラブは29あり、和太鼓のほか、福祉部もボランティア中心に活動しています。（取材・写真 南形徹）

広陵で昔遊びフェスタ

猛暑の7月30日、広陵町の福祉センターでKSCスタッフによる「昔遊びの集い」が開かれました。子供たち24人と父



母らが参加。竹馬・水鉄砲、紙飛行機・あやとり・マジックなどでワイワイと楽しい2時間を過ごし、「竹馬に乗れるようになった」「竹とんぼがよく飛んだ」「ぶんぶんゴマができた」



「マジックが面白かった」と満足そうでした。この催しは、北区会長の道満氏ら「ふれまち協」が主催。グループ〈わ〉の昔遊び研究会が協力して実現したものです。（取材・写真 南形徹）

【KSCのスタッフ】待鳥孝、大澤貞男、田代良一、飯川泰郎、森田香代、諸石勝子、南形公子、橋本幸代、衣笠年子、黒田好子、窪田幸子、松村セツ子、黒本茂弘、南形公子、水流正成、西川壽夫、田代良一、庄田洋一、富岡康